

(様式第1号)

平成20年度第5回 芦屋市健康増進・食育推進計画策定委員会会議録

日 時	平成21年2月24日(火) 13:30~15:30
場 所	芦屋市医師会医療センター2階
出席者	委員長 立花 久大 副委員長 野田 京子 委員 須山 徹 委員 溝井 康雄 委員 中野 久美子 委員 中條 智子 委員 上坂 泰代 委員 大西 照雄 委員 山中 利加 委員 安田 智巳 委員 磯森 健二 欠席委員 大西 富子, 伊田 義信 事務局 健康課長 北口 泰弘, 主幹 瀬戸山 敏子 主査 大上 勉, 主査 久保田 あずさ
事務局	保健福祉部健康課
会議の公開	公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

ア 計画素案の検討について

イ その他

(3) 閉会

2 提出資料

・資料1 (仮称) 芦屋市健康増進・食育推進計画【素案】

3 審議経過

【議事】

【立花委員長】

それでは早速会議に入りたいと思います,本日の会議の位置づけは芦屋市健康増進・食育推進計画素案の確認に入ります。委員会の意見を反映した修正点の確認について76ページ食育推進計画からを重点的に検討したいと思います。事務局より説明をお願いします。

【事務局】

「前回の策定委員会の修正、訂正の報告と第4章 食育推進計画(1)」の資料説明

【立花委員長】

最初の「健康を維持する食習慣の確立と実践」について何かご意見ございますか。

【立花委員長】

80・81 ページ朝食を食べる頻度についてですが 20 代男性が 28.5%というのは非常に少ないと思いますが。

【事務局】

17.1%の「週2・3日」その次の 11.4%「まったく食べない」を合わせて 28.5%となります。

【立花委員長】

どなたかご意見ございませんでしょうか。

【大西（照）委員】

85 ページの家庭や地域の取り組みの項目があがっていますが「インスタント食品や加工食品の摂取を控えます」という表現だとちょっと罪悪感がありますけどね。

【事務局】

今はインスタント食品や加工食品をうまく利用して食べようというふうになっていますが、以下3つの記述は少し厳しい表現ですので削除しようと思います。

【大西（照）委員】

この表現だと厳しいと思いますね。

【事務局】

そのとおりだと思います。「塩分を控え、薄味を心がけます」と書いていますが、これは食習慣の確立なので、視点が大きかったり小さかったりしますので、視点を統一した形で記述しようと思っています。大事なことは目標のところに「一日3回食事をとろう」としていますので、まず一番目に「一日きちんと3度食事をとります」というのが大事なことです。それと同じですが、とにかく子どもに朝ごはんの欠食がありますので「毎日朝ごはんを食べます」というのが2番目。そして3番目に「食事の時間を家族と一緒に楽しみます」ということで個食を防止するということです。4番目に「食事に主食・主菜・副菜をそろえましょう」を加えます。その3つをそろえやすくとバランスが保てますので、具体的に主食・主菜・副菜をそろえるという内容のものを。それから中年男性のこともあるので「適正体重を保つための食事を心がけます」食事を知るということで、適正体重かどうかはパロメーターとして体重を量ることで分かるので、その食事を心がけるということです。

また、「家族や仲間と一緒に楽しく食事をする」と最後がよく似た表現になっているので、どちらか1つにしたらいいと思っています。もうひとつ大事なことで、子どもに教えたい、家庭でも教える大事なことなのですが「人や物への感謝するように努めます」物をつくってくれる人や物へ感謝するような心がけを家庭でも学校でもお話をしよう努めると。そういったことが家庭や地域でもできますし、行政ももちろんですが、そ

れはやはり家庭や地域で取り組む中心的事業かなということ、それを入れたいなと思います。

【立花委員長】

ここに書いてあるのとだいぶ違いますね。

【事務局】

そうですね。このあたりの表現が非常に細かすぎて、食育というものを考えるにあたって何が不足して何が問題で食育を考えていくのかというときに、やっぱり今申し上げた内容の方が大きい視点になり、大事かと思います。細かいことについては食育の中では健康増進の中にも入っていますので。

【大西（照）委員】

特に、このインスタント食品という表現はマスコミが作った造語ですから、あまりこういう場では使わないほうがいいと思います。

【立花委員長】

大西委員さんに言っていただきましたが、その他に何かございますか。妊娠中の栄養バランスが損なわれますというのはどうか。

【事務局】

妊娠中に特化するのはこの場所ではあまりよくないと思いますので検討します。

【立花委員長】

いかがでしょうか。

【溝井委員】

私から補足させていただきますが「噛むこと」が抜けていると思うんですね。肥満対策や機能の発達にも関係しますので、よく噛んで食べることが大事だと思います。

【立花委員長】

他にはないでしょうか。「幼児講習会・父母の研修会への積極的な参加」はいらいますか。

【事務局】

それは、食育推進の実践ということで98ページのところに「食育推進活動を実践しよう」という基本目標の中に入れたほうがいいのではと思います。食育活動の推進ということで家庭や地域での取り組みということで、講習会などへ積極的に参加をして活動を推進しようということですので、こちらへ持ってきてほしいと思います。

【立花委員長】

これにつきましてご意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは次をお願いします。

【事務局】

「(2) 食文化の継承」の資料説明

【立花委員長】

ありがとうございました。これにつきましてご意見ございませんでしょうか。

【溝井委員】

87 ページの一番下に「本市ならではの食文化」とありますが、具体的に芦屋市にはどのようなものがありますか。

【上坂委員】

県とか国の行事食のお料理とか。ただ、このままでは分からないからもっと大きなものを入れるとか。

【溝井委員】

食文化の継承って芦屋の中にあるんですか。

【事務局】

日本古来の食文化ということで、要するに郷土色はないんですが、行事食や伝統食を継いでいこうという意味があります。

【上坂委員】

今の若いお母さんに料理教室でのアンケートをして、どのような料理かと聞くとみんな行事食を知りたいというのが多いんですね。

【溝井委員】

正月の餅にしても、あんこのところもあるし、白味噌というところもいろいろあるんで芦屋にも何かあるんですかね。

【事務局】

芦屋市ならではのということではないので「本市ならではの」という言葉を取りまして「日本の」と変更したいと思います。全国的な行事食を子どもたちに伝えていきたいと思います。

【溝井委員】

日本の食文化とその背景にある伝統行事というような、そういう書きの方がいいのでは。

【立花委員長】

他にはご意見ございませんでしょうか。

【山中委員】

私だけが感じているのかもしれませんが、取り組みの柱と基本目標がまったく同じ表示になっているんですけど、食文化を継承するというのは分かるんですが、ちょっと基

本目標として硬いようなイメージがあります。例えば子どもと一緒におひなさまだから
ちらしずしという感じで、子どもとそういう話をしながら作ればいいと思います。で
すので、例えば「食文化に親しもう」というのはどうでしょうか。

【野田副委員長】

行事食になると、日本の食文化ということになります。地域によって伝統食も異なっ
てくるのではないかと思います。

【立花委員長】

おひなさまにはちらしずしということさえ僕なんかは知らなかったですから。

【野田副委員長】

私は九州から来て30年くらい住んでいるんですけど、今、栄養士として食事を提供
している中で、やはり芦屋の方はパン好きでいらしたり、お年寄りでも洋風のほうが好
きだったりします。朝もパンがいいと。私たちから見たらハイカラなんですね。ちょっ
と尼崎なんかに行きますと朝はご飯がいいとなりますが、芦屋ではパンなんです。何も
ないとおっしゃいましたが、そういうところも芦屋の食文化だと思う。

【溝井委員】

それは年代によっても違うんじゃないですか。

【野田副委員長】

そうでしょうか。90歳くらいの方でも芦屋の場合はパンが好きとおっしゃいますが。
食育は健康をということなので、パンがいいとかケーキがいいとかいうことでは
ないですが、芦屋にはまったくそういう食文化がないかということとそうでもなく
難しいですね。

【野田副委員長】

地域的な観点では行事食を食べようというのではなくて、普段の生活の中から取り入
れて、子どもと一緒に作れたり話をしながら食べれたらいいと思います。芦屋には
芦屋の食文化があると私は思いますし。

【立花委員長】

行事食にどのようなものがあるのか、それさえあまり知らないの、それらを啓蒙す
る必要があるのではないかと思います。行事食と伝統食はどう違うんでしょうか。

【野田副委員長】

伝統はその地域にずっと受け継がれてきているものだと思います。

【大西（照）委員】

伝統食と行事食は地域によって違うんです。これが伝統食だと言って食べられてい
るところもあるし、伝統食がないから行事食と銘打って導入している地域もあるん
です。これは余談ですけども、さきほどパンの話が出ましたが、某大手のパン屋さん
がパンの消費を拡大しようというので、どこでパンの消費が増えるかといったら、
これは昼

と夜なんですね。朝にパンを食べられている率は非常に高いから、今拡大しようとしているのはお昼だそうです。日本の食生活では夜は増えないそうです。それで、お昼を増やすために何が売られているかというサンドイッチなんです。最近ではランチボックスなんかも出てきています。これは、そういう発想から出てきたもので、パンひとつにもそういう傾向があるんです。ですから、行事食と伝統食は分けにくいと思います。

【事務局】

日本型の食生活は本当に世界に誇る健康食なんです。それが何かと言うとやはり、味噌と醤油だと思うんです。マヨネーズやケチャップの文化ではない、味噌と醤油の文化が日本型の食生活だと私は思います。そういった六甲みその工場が唯一、芦屋にはあります。そういうことにもふれたらいいのではないかと考えています。

【大西（照）委員】

そういう意味で見ると芦屋は伝統食がないです。だから神戸からひっぱってきて伝統食の中へ入れようとしているものもあるし、このくくりは見ていてちょっと無理があると思っていました。

【上坂委員】

伝統と行事食を結びつけるのがよくないんじゃないかと思います。

【大西（照）委員】

行事食のみに絞りこんではいかがですか。

【立花委員長】

伝統食というのは消して、行事食のみにするということですね。

【上坂委員】

78 ページに取り組みの柱として食文化の継承とあるので、ここは変えられないですね。

【溝井委員】

89 ページの行政・関係団体の取り組みの中の学校給食の中に行事食を継承という言葉がありますけど。学校給食は小学校だけですよ。

【事務局】

そうですね。

【溝井委員】

統一メニューですか。

【事務局】

それぞれの学校に栄養士がいますので、学校ごとに違います。

【溝井委員】

統一メニューでなければ、ここに行事食を入れるのは非常に難しいのではないですか。学校ごとに個々にやるわけですか。

【事務局】

個別のメニューになっていますが、行事食というのは各学校の栄養士が集まって話し合いをして、大体同じようなメニューが出されていると思います。

【溝井委員】

神戸市の場合は統一メニューですからね。

【立花委員長】

伝統料理・行事食を伝える取り組みで、行事食等の伝統的な料理を取り入れてと書いてありますが、伝統料理が大きいですね。行事食も伝統料理ですね。伝統料理をとって、行事食だけにするということがよろしいでしょうか。

【須山委員】

「行事食等の伝統的な料理を」というのが一番正しいと思うのですが。伝えていくのは子どもたちにでするので、子どもをメインとしていけばいいのではないのでしょうか。

【事務局】

「食文化に親しもう」という基本目標のご意見がありました。継承ではなく親しもうということによろしいですか。

【大西（照）委員】

継承というと上下関係みたいになってしまいますからね。

【立花委員長】

それでは、そういうことで皆さんよろしいでしょうか。

【野田副委員長】

お母さん方にも、行事食を知ってほしいという考えもあります。

【安田委員】

98 ページの2つを合わせて(2)の地域・家庭での取り組みにしたらどうでしょう。

【立花委員長】

では、そのように修正をお願いします。3番目にいきましょう。

【事務局】

「(3)食の選択力を養う」の資料説明

【立花委員長】

健康協力店はどんなことをしてくれるのですか。

【上坂委員】

健康に良い食材を使ったり、「バランスのよいものを提供しています」というポスターを貼って取り組んでいる店です。

【溝井委員】

塩分等の規定はないのですか。

【上坂委員】

あくまでも協力店ということです。

【立花委員長】

家庭や地域の取り組みの1つめで、行政が取り組みをしているのはどういうことですか。市民が知識を高めるためには何をしてくれるんでしょうか。

【事務局】

食品表示の見方についての講座なんかも年間1回はしています。

【立花委員長】

それをすることによって、知識を高めることになるわけですね。

【事務局】

行政の取り組みの中に、こどもの食生活の中で食品表示の見方の講座をお母さん方に教育しております。そういった内容をここに加えたいと思いますが。

【立花委員長】

そうですね。どこに関連があるかということも分かるといいですね。そのところでどなたかご意見よろしいですか。それでは(4)の説明をお願いします。

【事務局】

「(4)食育推進の取り組み」の資料説明

【立花委員長】

ありがとうございました。ただいまの食育推進の取り組みについて何かございますか。

【野田副委員長】

99ページの行政の取り組みのところ、幅広い取り組みができるように、団体の取り組みももう少し入れてほしいと思います。

【事務局】

ここにはイベント的なものも入れていこうと思います。

【野田副委員長】

実際に行っている担当もプラスしてはいかがですか。

【事務局】

89 ページボランティア活動は、いずみ会さんの「子どもの食生活改善促進事業」を再掲という形でいいですか。内容も膨らませないといけませんね。

【野田副委員長】

1年に1回だけの食育月間では忘れてしまいますから、毎月19日が食育の日ということも追加が必要です。

【立花委員長】

これは全国的にですか。

【野田副委員長】

いずみ会はやっています。日本栄養士会も19日は食育の日となっています。

【立花委員長】

その日に何かやるんですか。

【野田副委員長】

その日に食育を意識していただけるように、ということです。

【立花委員長】

パンフレットやポスターを見るだけでも気づきになりますね。

【立花委員長】

他にございますか。

【野田副委員長】

93 ページの一番下の表は間違っていないですか。

【事務局】

「非常用食品の備蓄をしていますか」という質問の間違いです、訂正いたします。

【立花委員長】

他にどなたかご指摘ございますか。

【大西（照）委員】

さきほどの98 ページ家庭や地域の取り組みで、上の2つが88 ページへいきましたよね。地域としてやる部分で農業体験が、「市民農園を積極的に活用します」に変わるんですね。

【事務局】

86 区画に2倍の応募があったそうです。今後、農園區画を増やすことは難しいということですよ。

【立花委員長】

他にはどなたかございますか。よろしいですか。

【磯森委員】

数値目標の 101 ページ個々の項目の現状・目標値は健康増進の目標、食育推進の目標別に分けたほうがいいのではないのでしょうか。

【事務局】

それは見やすいようにします。

【磯森委員】

これは4年間の数値目標ですが、評価をどうするのでしょうか。それについては書かなくていいのでしょうか。

【事務局】

アンケート調査をするかどうかですが、推進体制としては6ページに掲げておりますが、評価となると、そこまではどこにも書けておりません。

【磯森委員】

その中でも4年経った時点で数値検証をするという文言が入っていればいいと思います。

【事務局】

数値目標ということで設定しておりますので、4年後の計画の最終のときにアンケート調査なりをして進捗状況を見る必要があると思います。

【藤井委員】

96 ページ(4)食育推進の中の取り組みで、調査を実施していくとありますが、そういうことでよろしいですね。

【事務局】

今回と同じような項目でアンケート調査を実施して、どのように変わったかを見る必要があるということです。

【藤井委員】

すると、さっき言った6ページとの関連がリンクしていたら非常に分かりやすいと思う。

【立花委員長】

他にはどなたかございますか。よろしいですか。それでは本日の会議は終了します。

(閉会)